



キャベツ(アブラナ科アブラナ属)

キャベツなどのアブラナ科野菜は夏まき栽培が一般的です。しかし、低温期に種まきをする春まき栽培では、早期に花茎が伸びて収穫できないことが起きます。適切な品種を選び、苗作りでの温度管理を上手にすれば、初夏に収穫する作型を成功させることができます。

「品種」と同じく立しにくい晩抽性と収穫期の高温を避けられる早生性を兼ね備えた品種を選びましょう。

柔らかくジューシーな春系の「春波」(タキイ種苗)、「中早生二号」(サカタのタネ)などがお薦めです。

「苗作り」発芽温度は、おおむね5〜35度で、適温は20〜25度です。その後の温度は、日中15〜20度、夜間5〜10度を確保します。そのため、トンネル内に温床マットなどを作り、最低10度を目安に加温しますが、日中は25度以上に上がらないように換気します(図1)。75〜9cmポリポットに3、4粒まきし、本葉2枚で1本とし、本葉5、6枚の大苗に仕上げます(図2)。

図1 加温育苗

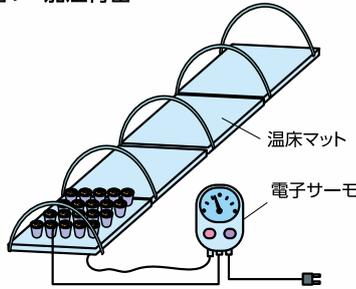
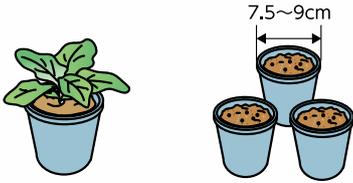
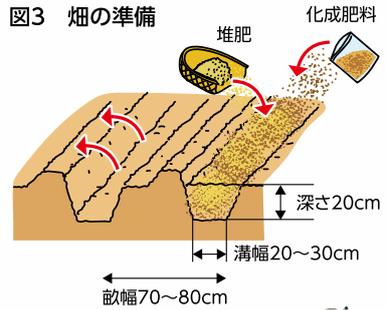


図2 苗作り



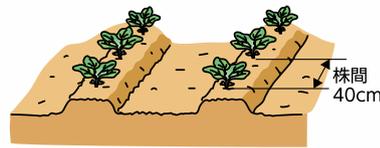
「畑の準備」畑1平方m当たり苦土石灰100g程度をまいて、よく土を耕します。畝幅70〜80cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり堆肥1kgと化成肥料(NPK各成分10%)100gを施し、土とよく混ぜて畝を立てます(図3)。

図3 畑の準備



「植え付け」時期はソメイシノが開花する頃(気温10度以上)に、株間40cmに植え付けます(図4)。

図4 植え付け



「病害虫の防除」気温が上がるとアオムシ、コナガの発生が多くなるので、BT剤などで防除します。

「収穫」球が固く締まる前に早めに収穫します(図5)。

図5 収穫



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



春まき	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冷涼地		○	○	○	○	○	○					
中間地		○	○	○	○	○	○					
暖地		○	○	○	○	○	○					

○ 種まき ○ 苗作り ○ 植えつけ — 生育 ○ 収穫

キャベツは冷涼な気候を好みますが、栽培にあつた品種を選べば、春夏秋冬一年中栽培が可能です。小ぶりでやわらかいグリーンボール、タケノコ型で生食用で味も良いみさきは家庭菜園向きでおススメですよ。

◆追肥

生育に合わせて3回追肥しましょう。本葉10枚くらいの頃に1回目、それから20日後、結球を始めたころのタイミングで追肥を行ってください。

◆収穫

収穫適期がきたキャベツは早めに収穫しましょう。キャベツは収穫適期が過ぎててもそのまま生長を続けるので、内側からの生長の圧力に負けて外側の葉が割れてしまいます。裂球したキャベツはその部分から腐りやすくなってしまうので、特に春まき夏どりの夏キャベツは裂球が起こりやすいので、適期を逃さずに早めに収穫するようにしましょう。

JAグリーン津店が
キャベツの
栽培のポイント
教えます!

JAグリーン津店
店長 松井 茂樹